

道徳の時間の事前に活用する

本場面におけるポイント



- **機会を見て話題にする**
朝や帰りの話合いなどで話題にし、日常的な関心を掘り起こしておく。
- **記入する機会をつくる**
事前に学級の全員で記入する機会をつくることで、一人一人の問題意識を高められるようにする。また、書いた内容を実態把握などに生かす。
- **家庭に呼び掛ける**
事前に家庭での話合いや書き込みを依頼しておく。

● 事前に家庭で話題にしてもらい、その内容を授業に生かす事例（第1学年）

- 1 主 題 名 自分の仕事がんばる〔内容項目4-(2)〕
- 2 中心的な資料 「みんなのニュースがかり」(文部科学省資料・平成24年)
- 3 ね ら い 働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 1・2年用P.78～79「わたしのしごと」
◇事前における生かし方: 授業が近付いたときに、学級通信などでP.78～79の内容を話題にして、家庭でしている仕事を話し合ってもらい、できればP.79に励ましの言葉を書いてもらうようにする。

5 展開の概要

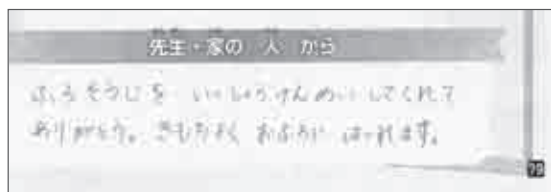
学習活動の流れ
1 家で自分が、今、特にならしている仕事について話し合う。
2 資料「みんなのニュースがかり」を読んで、主人公けいすけの気持ちを考える。
3 自分がみんなのためになる仕事をしたことを発表し合う。
4 家の人にどんなふうに励ましてもらったかについて確かめて、意欲を高める。

6 「心のノート」活用の実際

2学期の後半に、家庭でP.78～79を話題にして、子どもを元気付ける言葉をP.79に書くことを依頼した。

道徳の時間では、終末でそれらを生かした展開を工夫した。

なお、家庭の事情等に配慮して教師が事前に書き込むようにすることも考えられる。



保護者の元気付ける言葉が子どもを励ます

● 道徳の時間につなげるために朝や帰りの話合いの中で用いる事例（第3学年）

- 1 主 題 名 節度のある生活〔内容項目1-(1)〕
- 2 中心的な資料 「目ざまし時計」(文部省資料・平成3年)
- 3 ね ら い 自分でできることは自分でやり、節度のある生活を行おうとする態度を育てる。

あらかじめ「心のノート」を用いておくことで道徳の時間が活性化する

- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 3・4年用P.12～15「ふみ出そうひとり立ちへのたしかな歩み」
◇事前における生かし方: 本主題の授業が近付いたときに、朝や帰りの話合いなどでP.15を話題にして、どれかを書き込み、発表し合う機会をもつ。

5 展開の概要

学習活動の流れ
1 どんとときに家の人から「自分のことは自分でしなさい」と言われるか発表する。
2 (1) 資料「目ざまし時計」を聞いて、リカに共感しながら話し合う。 (2) 後悔したことや、自分なりにがんばれたことなどを思い起こす。
3 P.15を開いて、書いたことを確かめ、付け加えたいことがあるときは付け加える。

6 「心のノート」活用の実際

3年のある学級では、学期の区切りなどに「心のノート」P.12～15に書き加える機会をついている。この授業の前にも同じように開いて、自由に見て話し合うようにした。授業では、そのこととつなげて話し合う場面を終末につくった。

● 子どもの実態把握のために教師が「心のノート」を生かした事例（第6学年）

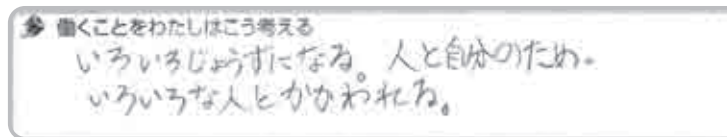
- 1 主 題 名 働くことの大切さ〔内容項目4-(4)〕
- 2 中心的な資料 「ぼくの草取り体験」(文部省資料・平成6年)
- 3 ね ら い 働くことの意義を理解し、公共のために働こうとする気持ちを育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫
◇活用するページ: 5・6年用P.92～95「働くってどういうこと?」
◇事前における生かし方: 本授業の前にP.93の記入欄に書いておくことを呼び掛ける。また、書いたことについて見取り、授業に役立てる。

5 展開の概要

学習活動の流れ
1 「働く」ことのイメージを発表し合う。(「心のノート」に記述したことを生かす。)
2 資料「ぼくの草取り体験」をもとに話し合う。
3 「働く」ことのイメージをふくらませ「心のノート」のP.93に書き加える。
4 「心のノート」のP.95を見て意欲を高める。

6 「心のノート」活用の実際

P.85に子どもが書く内容には、「人と自分のため」「生き延びるため」「生きがいとするため」「楽しむためのお金をもらうため」など、多くの考えが表れていた。それらを読み取り、授業での指名に生かしたり、教師からの情報を提示したりした。



P.93に書き込んだ「働くことをわたしはこう考える」

道徳の時間の事後に活用する

本場面におけるポイント

- **道徳的価値についての考えをさらに深め、発展させる**
道徳の時間に学習した道徳的価値についてのページを活用して考えを深め、さらに関連したページを活用することによって考えを発展させることができる。
- **他の活動につなげ、自己理解を深める**
記述した内容を各教科等の学習と関連付けて活用して考えを発展させたり、同じページに重ねて記述したりすることで、何度も自己を見つめ、自己理解を深めることができる。
- **様々な人の生き方に学ぶ**
自分以外の人による記述から、より客観的に自己を見つめるとともに、保護者や地域の人々の考えを知り、よりよい生き方を考えることができるようにする。

●重ねて活用して自己を振り返った事例(第1学年)

- 1 主題名 反省と向上 [内容項目1-(5)]
- 2 中心的な資料 「じいちゃんへ」(文部省資料・平成3年)
- 3 ねらい 自らの生活を振り返り自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めようとする態度を育てる。
- 4 展開の概要

- (1) 校長講話「自分らしさの発見」を思い起こす。
- (2) 資料を読んで、筆者が大工になろうとした理由を考える。
- (3) 大工の師匠として祖父を選ぼうとしたのはどんな気持ちからかを考える。
- (4) 自らのよさを将来の職業に結び付けて考える筆者から学ぶことを考える。
- (5) 校長講話「自分らしさの発見」を再び思い起こしながら自分の個性について「心のノート」に記述する。

事後「友達から見た自分」を参考に「心のノート」に再度記述する。

- 「友達から見た自分」の記入用紙はP.37「自分のこんなところを」「こうしたい」を「あなたのこんなところを」「こうすれば」に変えて印刷した用紙を使用する。

5 「心のノート」活用の実際

- **中学校用P.36～37「あなたらしさがあなたの個性」**を複数回活用することで様々な角度から自己を見つめ、本授業の事後でも再度自己を振り返るようになった。
- 他の道徳の時間の後にも、自己を振り返りながら活用できる。

- 1回目 生命の尊重の授業後で活用
- 2回目 家族愛の授業後で活用



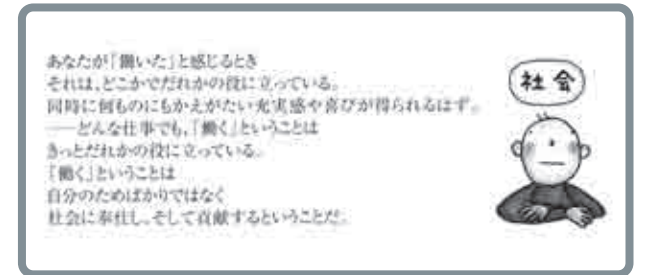
中学校用P.37

- 3回目 校長の講話を思い起こし活用
- 4回目 本授業の事後で活用

より多面的に自己を見つめ、自己理解を深める

- (発展として) 道徳の時間に学習した道徳的価値について関連ページを活用した。
・授業後に**中学校用P.108～111「考えよう「働く」ということ」**を読み、働くことは生きがいにもつながることを考えた。
職場体験学習に活用することもできる。

中学校用P.111



●記述内容を発展させて活用した事例(第3学年)

- 1 主題名 わたしの家族 [内容項目4-(6)]
- 2 中心的な資料 「スダチの苗木」(文部省資料・平成6年)
- 3 ねらい 父母への感謝と敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚を高めようとする態度を育てる。
- 4 展開の概要

- (1) 進路アンケートの内容を知る。
- (2) 資料を読み、職業欄に「運転手」または「農業」と書いた両親の気持ちを考える。
- (3) 給料の全てを母に渡し、子どものために働き続ける父の思いを考える。
- (4) 自らの生い立ちを語った父の気持ちを考える。
- (5) 筆者はスダチの苗木にどのようなことを感じているのか話し合う。
- (6) 事前にかけてもらった家族からの手紙を読み、家族について考える。

事後「心のノート」を読み、記述し、それをもとに作文を書き、保護者から手紙や感想をもらう。

5 「心のノート」活用の実際

- 学習した道徳的価値にかかわるページを活用して考えを深めた。
・**中学校用P.112～115「家族だからこそ…」**を読み、家庭を築いたときの考えを記述した。
・「心のノート」に記述したことをもとにして今の「家族への思い」を作文にした。
・「心のノート」への記述や作文を家族に読んでもらい、会話のきっかけをつくった。
・家族からの感想や手紙をもらい、家族との交流に役立てた。
- 国語科や技術・家庭科等の授業でも活用できる。

中学校用P.115



時々、家族以外の人から父の背中にかけてられる責任の重さに、父がいつか耐えられなくなるのではないかと心配になる...

大きな責任への心配をありがとう。父より